

石川県における支援機器を用いた

自立支援の取組

～自立支援機器普及アンテナ事業の活用～

石川県リハビリテーションセンター
支援課長 寺田 佳世

(認定作業療法士・福祉用具専門作業療法士)

1. 地域の概況と取組みの経緯

平成6年にリハビリテーションセンター（以下、センター）を開設。平成8年にはセンター、工業試験場、土木部建築住宅課の医工学連携組織である「バリアフリー推進工房」を設置し、平成10年にバリアフリー体験住宅「ほっとあんしんの家」を建設し、障害のある方や高齢者への道具や環境の適合・改良等による自立生活支援、企業等への福祉用具・ユニバーサルデザイン製品の研究開発支援、公共施設等のバリアフリー化に関する技術支援が加速した。

平成15年に県リハビリテーション支援事業、平成16年に県介護実習普及センターからの移管で福祉用具研修普及事業、平成18年に難病相談・支援事業、平成19年に高次脳機能障害相談・支援事業を開始した。



石川県リハビリテーションセンター

【人口】 1, 141, 741人

（令和元年7月末現在）

【面積】 4, 186 km²

【障害児・者の人数】

身体障害者数：45, 087人

知的障害者数： 8, 421人

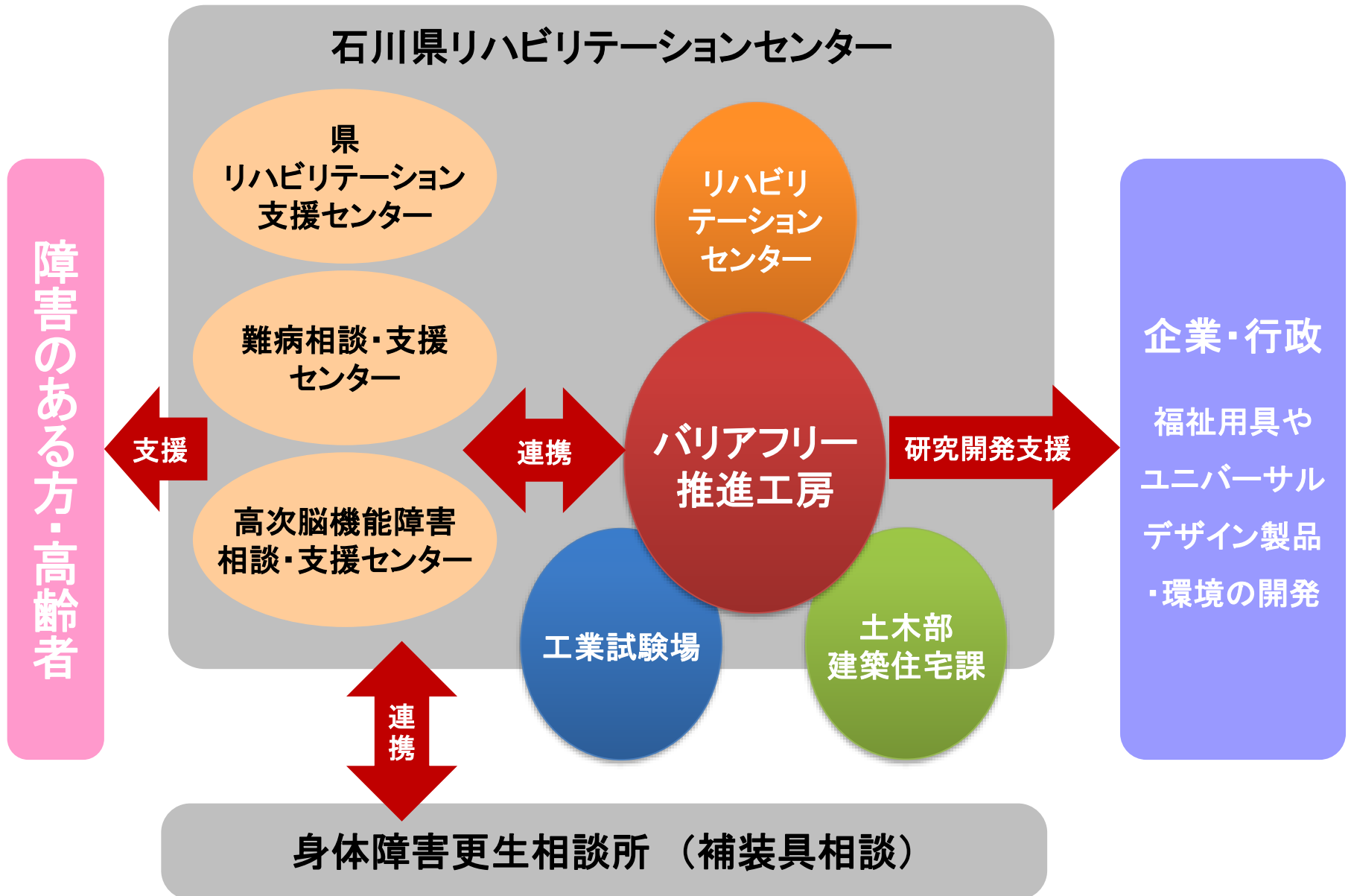
精神障害者数： 6, 416人

（H29年度）

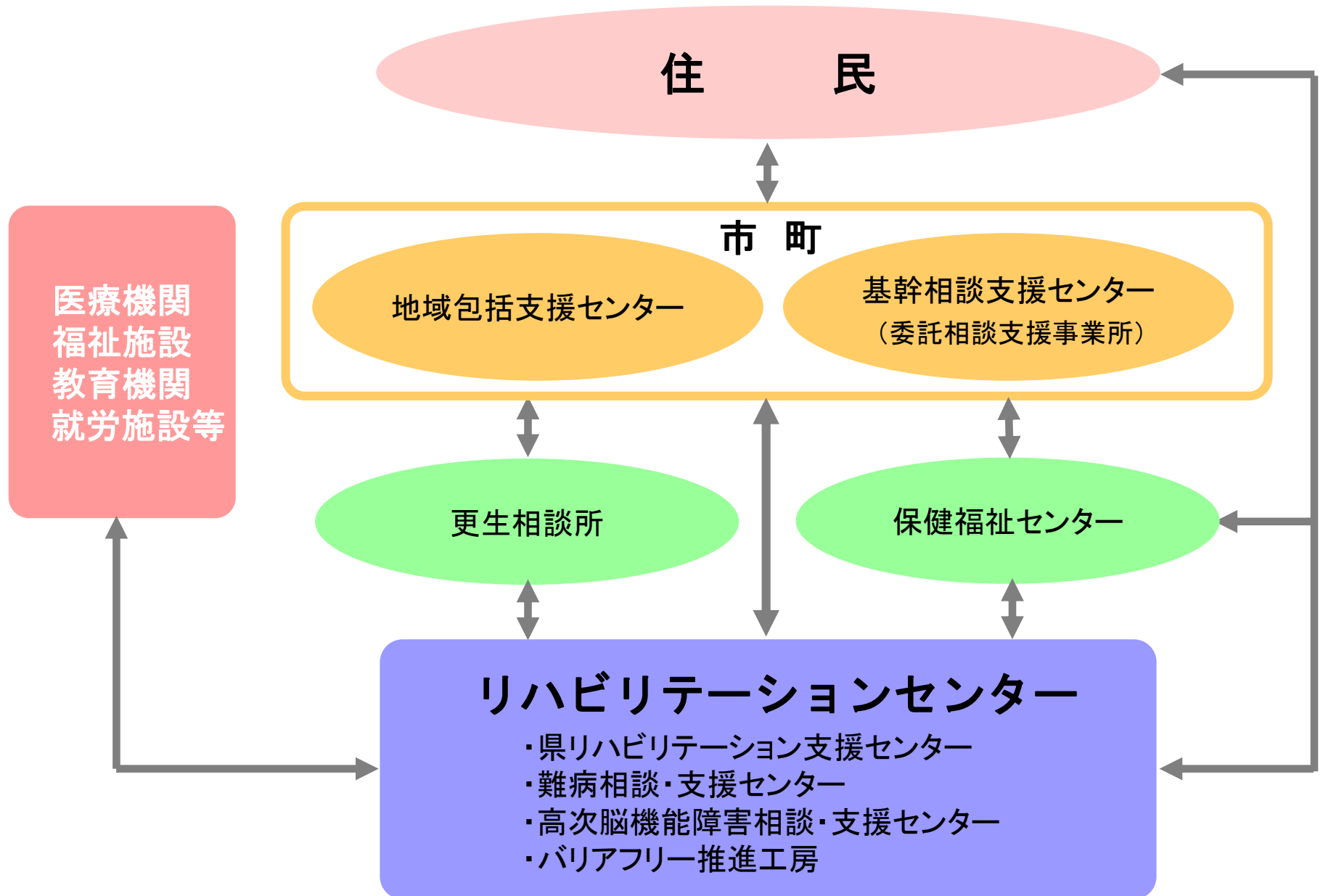
2. センターの組織

庶務課		(事務管理)	
支援課	県リハビリテーション支援センター	・ 地域リハビリテーション推進事業 ・ リハビリテーション研修事業 ・ 福祉用具研修・普及事業 ・ リハビリテーション技術支援ネットワーク構築事業	・ 医師：1名（兼務） ・ 作業療法士：7名 ・ 理学療法士：1名 ・ ソーシャルワーカー：1名 ・ リハ工学エンジニア：4名（うち2名兼務）
	バリアフリー推進工房	・ バリアフリー推進工房事業	
	難病相談・支援センター	・ 難病相談・支援センター事業	連携 ・ 保健師：4名 ・ 心理相談員：1名
	高次脳機能障害相談・支援センター	・ 高次脳機能障害支援体制整備事業	

3. センターの組織体制



4. 地域リハビリテーションの支援体制



5 設備・展示品（1）

種目	数	種目	数
【治療訓練用具】	20種	【家具・建具・建築設備】	350種
【義肢・装具】	80種	手すり、段差解消機、階段昇降機、座位保持装置等	
上肢把持装具、スプリント等		【コミュニケーション関連用具】	400種
【パーソナルケア関連用具】	200種	重度障害者用意思伝達装置、携帯用会話補助装置、スイッチ、特殊マウス、特殊キーボード等	
排泄・入浴用具等		【操作用具】	200種
【移動機器】	800種	自助具等	
歩行車、車椅子、電動車椅子、移乗機器、移乗用具、車椅子付属品、車椅子クッション		【環境改善機器・作業用具】	20種
電動操作インターフェース等		【レクリエーション用具】	50種
【家事用具】	200種	【その他】	30種
家事用具、食事用具等			

【機器の入手・更新方法】

- 県の予算で入手。
- 補装具等の適合のための試用評価に必要な用具を整備。
- 個別ケースの技術支援に部品等を調整し、試用対応できる道具を整備。

●住宅改修プランや福祉用具の試用検討を行うバリアフリー体験住宅「ほっとあんしんの家」



●生活動作に適した福祉用具を選択するための試用検討を行う福祉用具



6 具体的取組内容

(1) 障害のある方への自立に向けた直接支援

(日常生活、就学、就労に関する技術支援、福祉用具の適合、住宅環境調整に関する技術支援等)

① 自立度の高い就学を実現するための技術支援 (市、相談支援専門員との連携)



●小学校生活を自立的に営める支援

●中学校入学に向けての環境と動作の確認

② 一人暮らしと就労を実現するための技術支援 (市、相談支援専門員との連携)



●車椅子の改造と適合



●介助軽減する移乗機器利用



●トイレキャリー改造



●リーチャー製作

③ 高校進学のための学校で利用する福祉用具等の技術支援 (教育委員会、学校との連携)



④ 自動車運転を実現する動作指導、自動車改造の支援 (県免許センター、自動車学校との連携による運転支援)

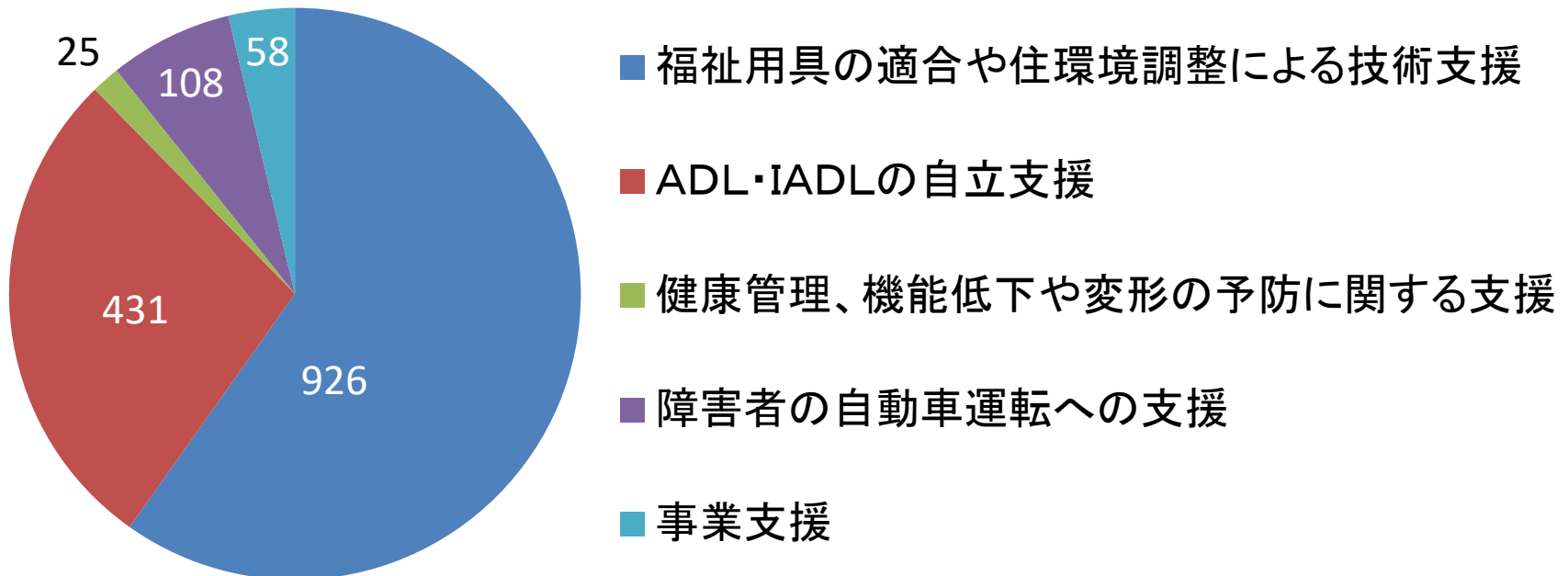


⑤ H30年度 相談・支援件数

個別ケースに対する相談・支援事業 1,763件

- ①福祉用具の適合や住環境調整による自立支援
- ②日常生活動作(ADL:食事、排泄等)、生活関連動作(IADL:家事、金銭管理等)の自立を促す支援
- ③健康管理、機能低下や変形、生活不活発の予防に関する支援
- ④障害者の自動車運転に関する支援 等

講師及び連絡会等への参加等 (事業支援) 58件



(2) 福祉用具の開発や施設環境等の

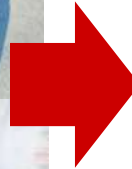
UDに関する相談支援

**在宅環境で利用できる
電動姿勢変換機能付き電動車椅子の研究開発**

取り組み動機

**支援からみえてくる
ニーズ**

神経難病 筋萎縮性側索硬化症の方



脳性まひの方



■ 開発の目的

目標

自身で姿勢調整が困難な電動車椅子ユーザ
⇒ 在宅環境等での自立的な生活をめざす

- 除圧や血圧調整、作業に応じた姿勢調整
→ 自身で姿勢変換できる電動姿勢変換機能が必要
- 在宅内狭所等での自立的な移動を実現
→ 軽量化・小型化・旋回性向上が必要

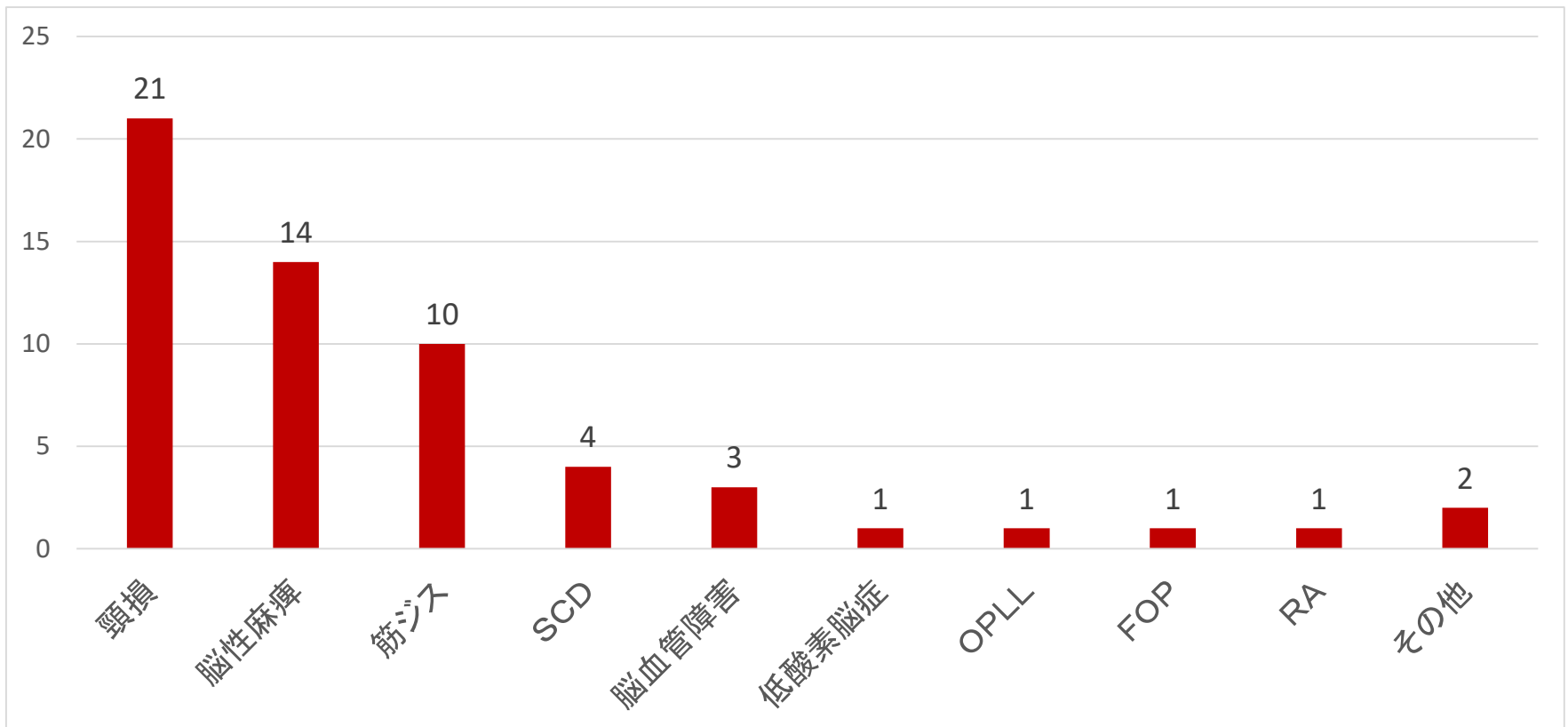


姿勢変換・屋内移動しやすい電動車椅子の開発

■ 開発の背景

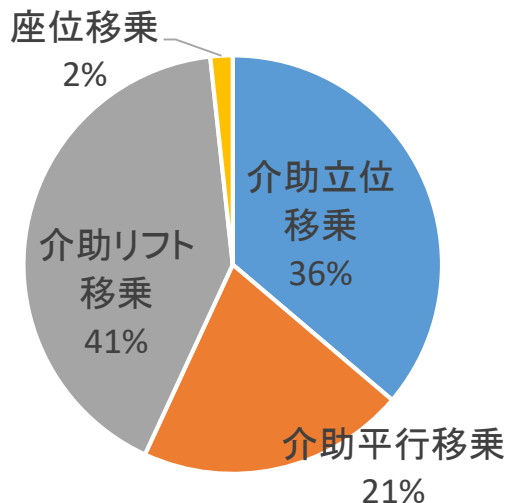
過去10年（2004年～2014年）の電動車椅子支援 93人 このうち
姿勢変換機能（ティルトやリクライニング）検討ケース 58人（63.4%）

姿勢変換機能が必要な58ケースについてデータ分析



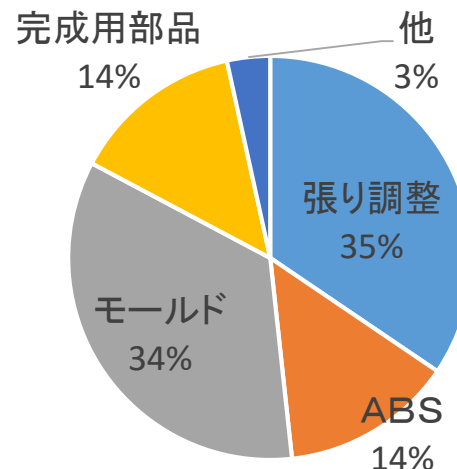
①開発の背景：支援データ分析（身体機能面）

● 移乗



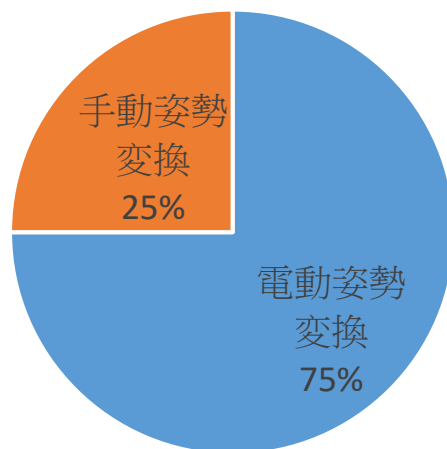
介助立位移乗や介助平行移乗で半数以上

● 姿勢保持



全てのケースで背の姿勢保持を検討

● 姿勢変換

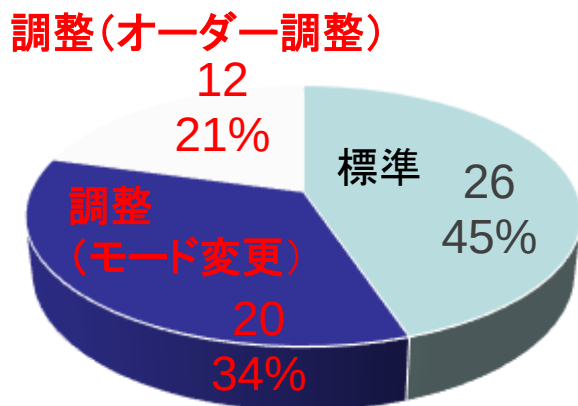


全てのケースが自分での姿勢変換を希望

②開発の背景：支援データ分析（身体機能面）

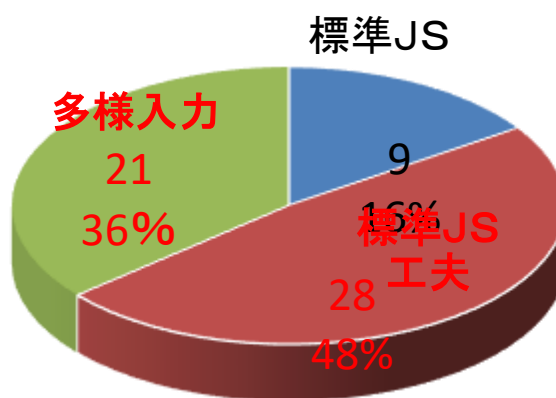
● 操作

走行特性調整



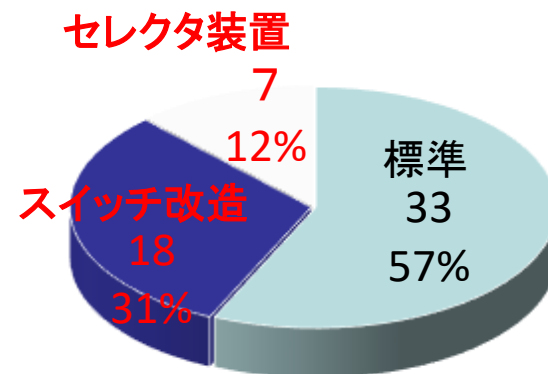
- ・ 旋回操作等が難しく、半数以上で走行特性調整が必要

走行操作装置



- ・ 1/3以上が小型JS等の多様入力装置
- ・ 標準JSを使う場合でも、ほとんどが作動力調整等の工夫が必要

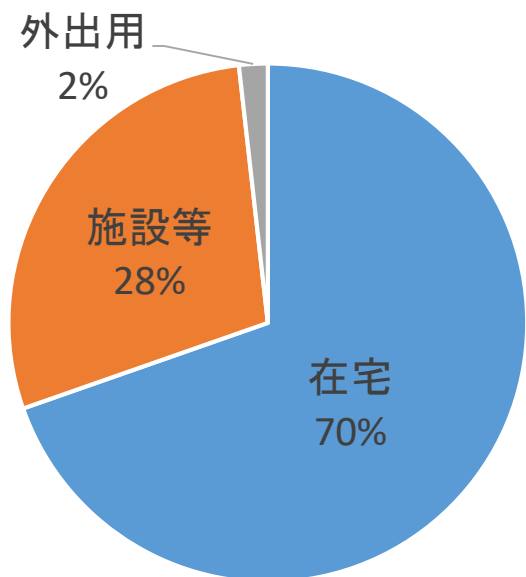
姿勢変換/電源操作装置



- ・ 半数近くが姿勢変換や電源操作の工夫が必要

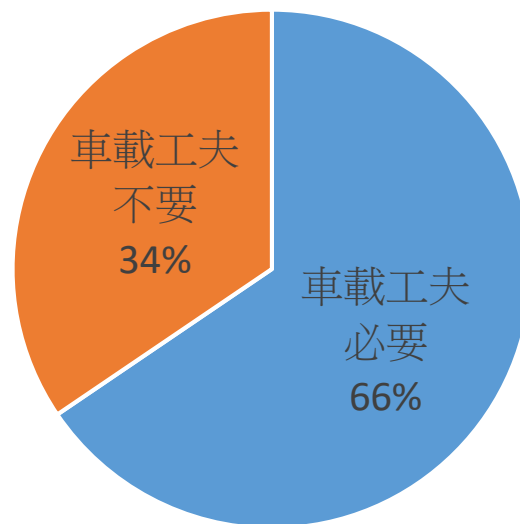
③開発の背景：支援データ分析（環境面）

● 主な使用環境



在宅で利用が7割
(地域性?)

● 車載のための工夫



車載のための工夫が必要

研究開発の経過①

開発を目指す電動車椅子に
必要な条件整理と仕様検討

■ 方法Ⅰ モニター検証による必要条件の整理

● モニターの選定

対象：起立性低血圧や座位耐久性低下等により**姿勢変換機能を必要**とし、在宅環境に対応した軽量コンパクトな電動車椅子を要望している電動車椅子ユーザ

● モニターの概要

対象ユーザ		ユーザA	ユーザB	ユーザC	ユーザD	ユーザE
疾患／性別		頸髄損傷／女	脳性麻痺／男	筋ジストロフィー／女	筋ジストロフィー／男	ポリオ後遺症／男
年齢／身長		56歳／159cm	57歳／169cm	65歳／148cm	44歳／178cm	74歳／170cm
移乗方法		リフト	介助立位・リフト	リフト	介助立位	介助座位 (移乗ボード)
本人	標準形・簡易形	標準形	手動車椅子	標準形	簡易形	手動車椅子
EWC	駆動方式	後輪駆動	後輪駆動	後輪駆動	後輪駆動	後輪駆動
タイプ	姿勢変換機能	電動ティルト	手動ティルト	電動リクラ	なし	なし
		+ 電動リクラ				
現状の問題点	姿勢保持の状況		不良		不良	
	痛み・耐久性低下	●	●	●	●	●
	起立性低血圧	●				
	住環境との不適合	●	●	●	●	●
	その他		特殊入力		特殊入力	

●必要条件検討のための評価機器（委託加工）

●ティルト前傾



●標準



●ティルト後傾



●ティルト後傾＋リクライニング



ティルト回転軸をシート前方部に配置（座背交点より25cm前方）

- 姿勢**
 - ・ 電動姿勢変換を自身で操作（ティルト-3～32° リクラ90～170° ）
バックサポートが165°（調整可）で自動停止
 - ・ 必要に応じて姿勢支持具（張り調整 ABS 完成用部品等）適用
 - ・ フットサポートの配置調整（前後・高さ・角度調整）
- 移動**
 - ・ 在宅環境での自操（多様な操作インターフェース装着可）
- 移乗**
 - ・ 介助立位移乗に対応（前座高 クッションなし41cm）
- 環境**
 - ・ 在宅環境での活用（全長92cm 重量39kg 最小旋回半径60cm）
 - ・ 福祉車両への乗り込み（全幅59cm 全高120cm）

■ 結果 I

① 必要条件と設計仕様（身体機能面）

	ユーザに応じた条件	試作機の設計仕様
移乗	・ 介助立位移乗、平行移乗等を行いやすいシート高、シート角度であること	・ 前座高41cm程度（クッション込50cm以下） ・ シート角度-3° 程度 前傾ティルト ・ フルフラット近くまでリクライニング
姿勢	・ 不安定な座位姿勢を保持し操作能力を有効に発揮できること ・ 自分で姿勢変換をおこない除圧や血圧調整等が可能であること	・ 自在な姿勢設定 電動ティルト機構（-3～30° 程度） 電動リクライニング機構（90～160° 程度） ・ 姿勢保持や変換機能に対応したフレーム形状 ・ バックサポート張り調整、座位保持装置完成用部品等を効果的に活用 ・ フットサポート高さ・前後・角度およびアームサポート高の調整
移動	・ 姿勢への悪影響が小さい走行特性であること	・ 中輪駆動による加速度、減速度の走行性向上
操作	・ 身体特性に応じた多様な操作力、操作範囲の調整ができること	・ 小型ジョイスティックや簡易1入力スイッチ等の多様インターフェースを接続（前後左右操作感度の不感帯） ・ 操作力に応じた操作位置、操作感度の調整

②必要条件と設計仕様（環境面）

	環境に応じた条件	試作機の設計仕様
サイズ	・ 狭い在宅環境で移動可能な左右幅、前後長であること ・ 福祉車両への乗り込みがしやすいこと	・ 全幅54cm以下 ・ 全長95.5cm以下 ・ 座面高41cm以下
移動性	・ 狭い在宅環境で旋回できること ・ 生活に必要な屋外移動ができること ・ 介助移動しやすいこと	・ 中輪駆動による最小旋回半径59.5cm ・ 床面からクリアランス8cmと6°の登坂能力、4cmの段差乗越え
重量	・ 木造建築床面の耐荷重をクリアすること ・ 車載リフトやホームエレベータ、段差解消機の利用可能なこと ・ 介助移動等で介助者が扱いやすい重量であること	・ 重量50kg以下

研究開発の経過②

条件を満たす試作機の製作と
モニター検証

製作した試作機

●ティルト前傾

●標準

●ティルト後傾

●ティルト後傾＋リクライニング



- 移乗** ・ 介助立位移乗、介助平行移乗等に対応（前座高40cm フルリクラ）
- 姿勢** ・ 電動姿勢変換を自身で操作（ティルト-3～30° リクラ90～160° ）
 - ・ 骨盤支持（側方＋後方）、胸背部支持（肩甲帯の可動性）
- 移動** ・ 安定性を確保する車輪配置（後輪駆動方式）
 - ・ 座席前方スライド機構により在宅環境対応
 - ▶ 軽量コンパクト（重量40kgf 全長90cm 最小旋回半径70cm）
 - ・ 多様な操作インターフェースと操作調整
 - ・ 福祉車両への乗り込み（全幅54cm）

■ 方法Ⅱ

① 試作機でのモニター検証

● モニターの概要

対象ユーザ		ユーザF	ユーザG	ユーザH	ユーザI	ユーザJ	ユーザK
疾患／性別		頸髄損傷 ／女	頸髄損傷 ／男	脳性麻痺 (痙直) ／女	脳性麻痺 (痙直・アテ トーゼ)／男	筋ジストロ フィー／女	ポリオ後遺症 ・脳卒中／男
年齢／身長cm		58歳／159	48歳／164	49歳／154	60歳／157	69歳／150	75歳／161
移乗(機器等)		人的介助 (リフト)	人的介助 (立位)	人的介助 (立位)	人的介助 (立位)	人的介助 (簡易移乗 機)	人的介助 (移乗ボー ド)
本人用EWC		座位変換形 (電動R&T)	簡易形	標準形	標準形	簡易形	座位変換形 (電動昇降)
現 状 の 問 題	姿勢保持		不良	不良	不良	不良	不良
	痛み・耐久性低下	●	●	●	●	●	●
	起立性低血圧	●	●				
	住環境不適合	●	●	●		●	●
その他				移乗不良			特殊入力

②試作機のモニター検証

● 検証方法

在宅生活を想定した場面において、**本人用**電動車椅子と**試作機を試用**し、リハ専門職による状況観察とユーザの主観評価から比較を行う

● 検証場面

移乗：車椅子とベッド間の移乗（本人および介助者の動作）

姿勢：姿勢保持と姿勢変換（走行姿勢、休息姿勢、作業姿勢）

移動：在宅環境での走行（扉開閉・ベッドへの移動と寄付き）
狭所での旋回性（廊下幅75cmのコーナー通過）



移乗



姿勢(走行、休息)



移動(扉開閉・ベッド寄付き、コーナー通過)

■ 結果Ⅱ

① 試作機のモニター検証結果：移乗

対象ユーザ	ユーザ F		ユーザ G		ユーザ H		ユーザ I		ユーザ J		ユーザ K	
疾患	頸髄損傷		頸髄損傷		脳性麻痺 (痙直)		脳性麻痺 (痙直・アテ)		筋ジストロフィー		ポリオ後遺症 ・脳卒中	
移乗(機器等)	人的介助 (リフト)		人的介助 (立位)		人的介助 (立位)		人的介助 (立位)		人的介助 (簡易移乗機)		人的介助 (移乗ボード)	
本人用EWC	座位変換形 (電動R&T)		簡易形		標準形		標準形		簡易形		座位変換形 (電動昇降)	
評価項目	本人	試作	本人	試作	本人	試作	本人	試作	本人	試作	本人	試作
移乗	◎	◎	◎	○	△	◎	○	◎	◎	◎	○	○

※評価欄の記号は各ユーザの主観評価 ◎：良好 ○：普通（可） △：不良 ×：不可

検証結果

全ユーザが概ね良好の評価

- ・ 低座面高・前傾ティルトにより確実に足底接地し、安全な介助立位移乗可能
- ・ リフトや簡易移乗機、移乗ボード利用可能

②試作機のモニター検証結果：座位と姿勢変換

対象ユーザ	ユーザ F		ユーザ G		ユーザ H		ユーザ I		ユーザ J		ユーザ K	
疾患	頸髄損傷		頸髄損傷		脳性麻痺 (痙直)		脳性麻痺 (痙直・アテ)		筋ジストロフィー		ポリオ後遺症 ・脳卒中	
年齢／身長	58歳／159cm		48歳／164cm		49歳／154cm		60歳／157cm		69歳／150cm		75歳／161cm	
移乗(機器等)	人的介助 (リフト)		人的介助 (立位)		人的介助 (立位)		人的介助 (立位)		人的介助 (簡易移乗機)		人的介助 (移乗ボード)	
本人用EWC	座位変換形 (電動R&T)		簡易形		標準形		標準形		簡易形		座位変換形 (電動昇降)	
評価項目	本人	試作	本人	試作	本人	試作	本人	試作	本人	試作	本人	試作
姿勢保持 [不良箇所]	○	○	○	○	△	◎ 背強度	○	○ 背強度	△	○	○	○
姿勢変換	◎	◎	なし	◎	なし	◎	なし	◎	なし	◎	なし	◎

※評価欄の記号は各ユーザの主観評価 ◎：良好 ○：普通（可） △：不良 ×：不可

検証結果

姿勢保持は概ね良好で乗慣れた**本人用と同等以上の評価**

- ・各部寸法調整範囲、骨盤支持・胸背部支持良好

走行・休息・作業の各**利用角度を満たして姿勢変換可能**

- ・頸損の血圧調整のためのリクライニング姿勢など

③試作機のモニター検証結果：移動

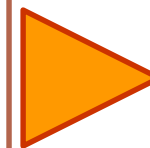
対象ユーザ	ユーザF		ユーザG		ユーザH		ユーザI		ユーザJ		ユーザK	
疾患	頸髄損傷		頸髄損傷		脳性麻痺(痙直)		脳性麻痺(痙直・アテ)		筋ジストロフィー		ポリオ後遺症・脳卒中	
移乗(機器等)	人的介助(リフト)		人的介助(立位)		人的介助(立位)		人的介助(立位)		人的介助(簡易移乗機)		移乗ボード	
本人用EWC	座位変換形(電動R&T)		簡易形		標準形		標準形		簡易形		座位変換形(電動昇降) 特殊入力	
評価項目	本人	試作	本人	試作	本人	試作	本人	試作	本人	試作	本人	試作
走行操作	◎	○	○	△	◎	△	◎	△	◎	○	○	△
旋回機能	◎	◎	○	◎	○	◎	◎	△	◎	◎	△	△
[75cmコーナー]	×	△	△	△	×	○	○	△	○	○	×	×

※評価欄の記号は各ユーザの主観評価 ◎：良好 ○：普通(可) △：不良 ×：不可

※幅員75cmコーナー通過 ○：通過可能 △：接触して通過可能 ×：通過不可

検証結果

- ・ 発進のスムーズさや操舵反応が不十分
- ・ 旋回性は試作機の方がやや良かったが更なる向上が求められる
- ・ 特殊インターフェースは利用できたが、操作性は不十分



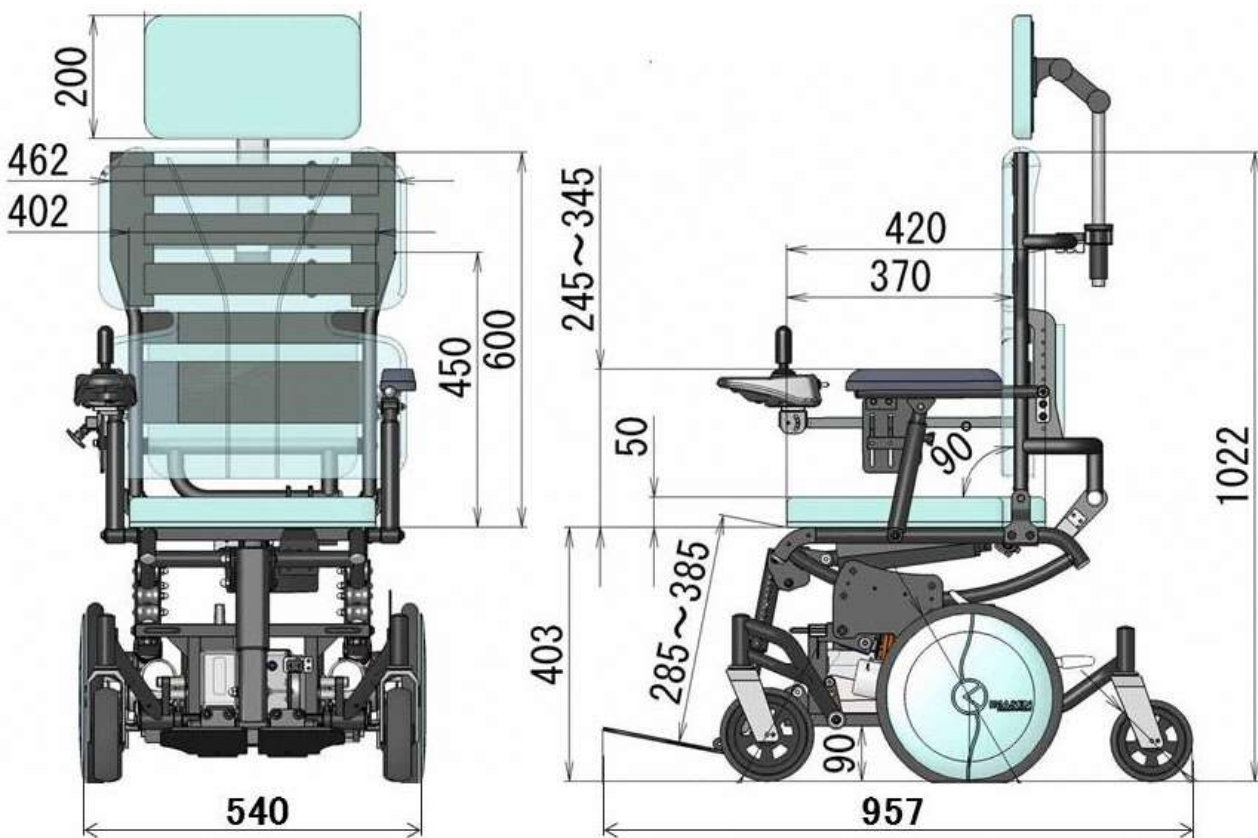
後輪駆動から中輪駆動に変更し改善を目指す

**商品化に向けた
機器開発**

完成品モデルでのモニター検証

④製品化検討モデル（中輪駆動）

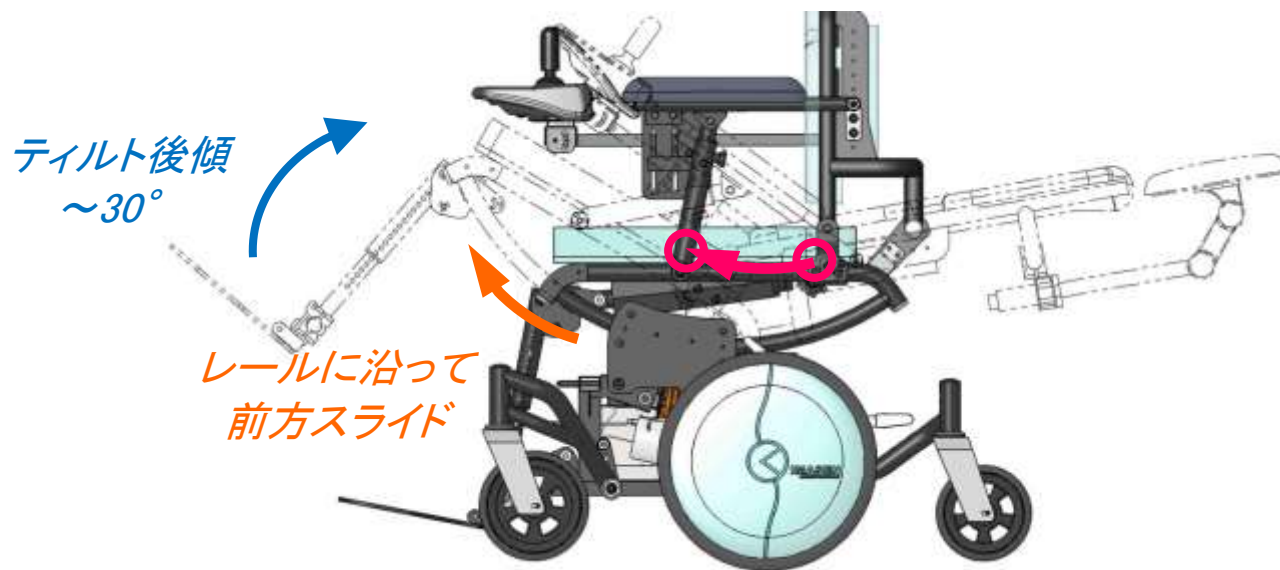
安定性、走行操作性、旋回性を重視 ▶ 中輪駆動モデルの開発へ



フレーム材質：スチール
重量：50kgf
最小旋回半径：608mm

ティルト角度：-3~30°
リクライニング角度：90~160°
※水平に対して170°で停止

⑤製品化検討モデル（中輪駆動）



●ティルト前傾



●標準



●ティルト後傾



●ティルト後傾+リクライニング

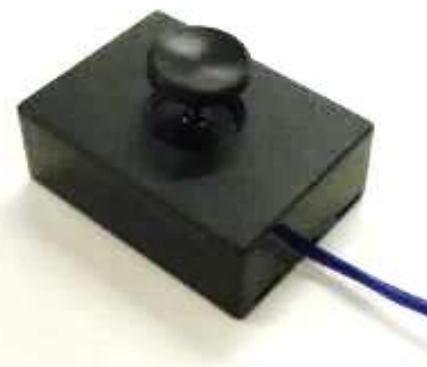
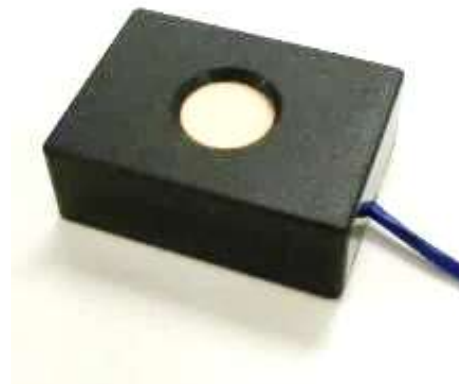
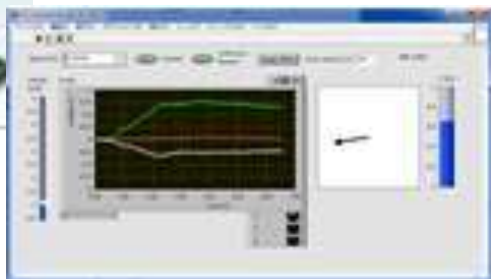
今後の展開

移動を諦めることなく
自立度の高い生活を送るには

■微弱操作力・微小操作範囲に適した操作インタフェースの検討



スポンジ状触覚センサーを利用した操作インタフェースの研究



③ 県立図書館のユニバーサルデザイン支援（県土木部との協働）



ユニバーサルデザイン 支援を行った公共建築

- ・新県立図書館
- ・金沢港クルーズターミナル
- ・新兼六駐車場
- ・東京国立近代美術館・工芸館
- ・森林公園三国山園地キャンプ場
- ・新幹線小松・加賀温泉駅

等

④ 企業や行政等への相談・支援件数



(3) 福祉用具・住宅改修に関する教育・研修、普及事業

① リハビリテーション技術普及研修

●リハビリテーション医療専門職研修 年3回

【研修テーマ】

- ・頸髄損傷の在宅生活を見据えたアプローチの仕方 参加者:49人
- ・地域で取り組む食支援について 参加者:82人
- ・NICU・PISUからはじまる小児在宅医療 参加者:50人

●教職員リハビリテーション研修（県教育委員会連携）年1回

【研修テーマ】

- ・動作の苦手さを理解するために 参加者:121人
（小松瀬領特別支援学校との協同開催）



② 福祉用具に関する研修

●福祉用具活用研修

対象者:リハ専門職

・リハビリテーション専門職のためのコミュニケーション機器導入支援

参加者:34人

●職場環境改善研修（県長寿社会課と連携）

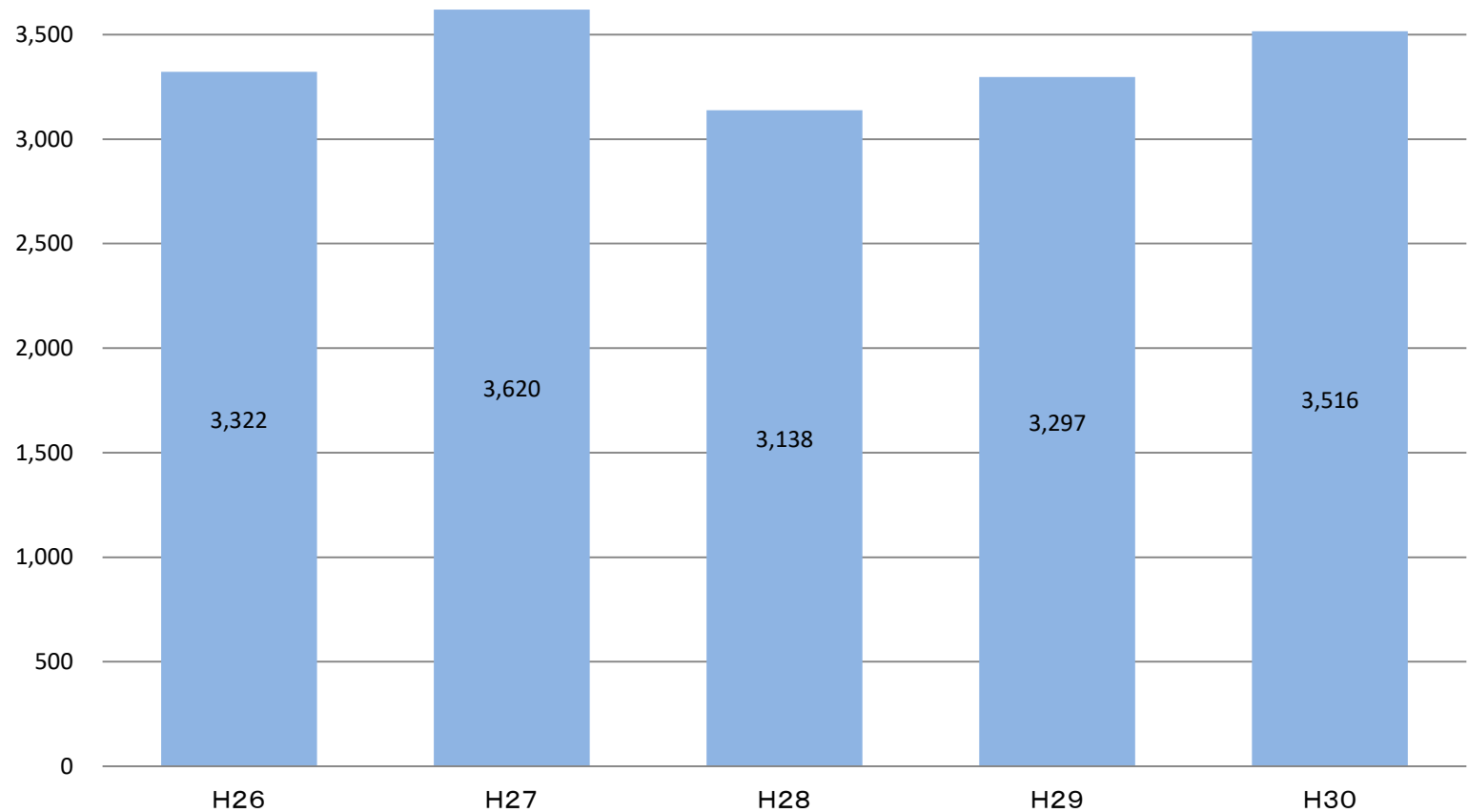
対象者:施設責任者及び施設職員 等

・利用者と職員にやさしい介護ロボット 参加者:51人

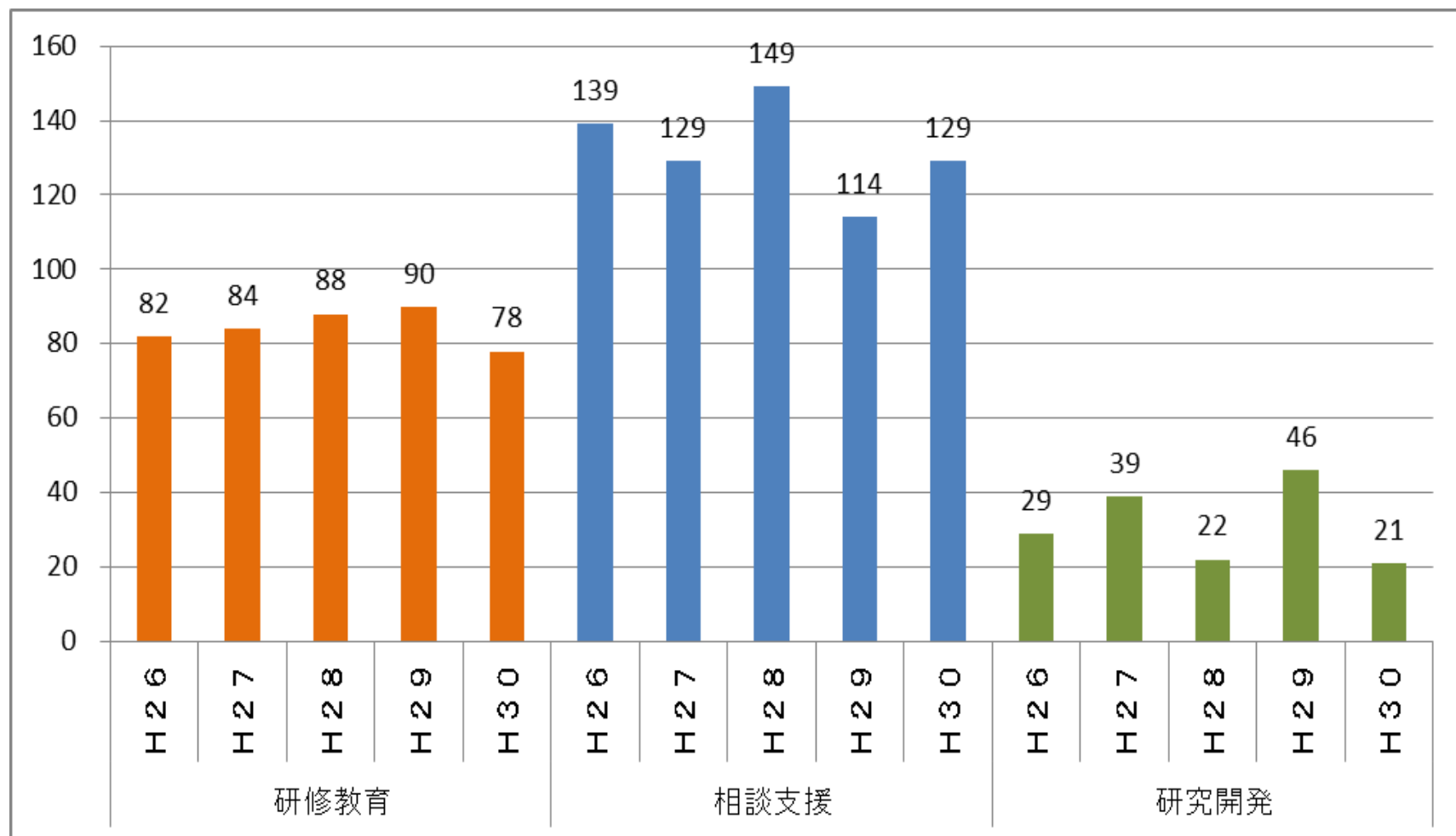


③ バリアフリー体験住宅の利用状況

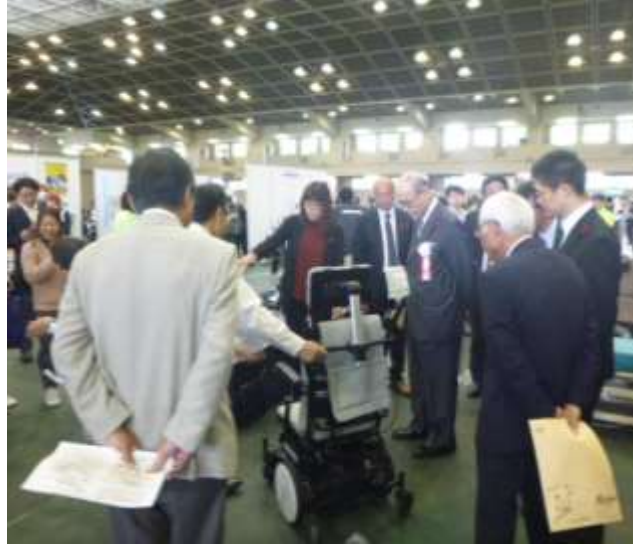
●利用者数の推移（人）



●目的別利用件数の推移（件）



④ ふれあいフェスティバル (障害福祉課) ・介護フェスタ (長寿社会課) へ出展



⑤ 医療・福祉職の学生、教職員を対象にした福祉用具の体験学習



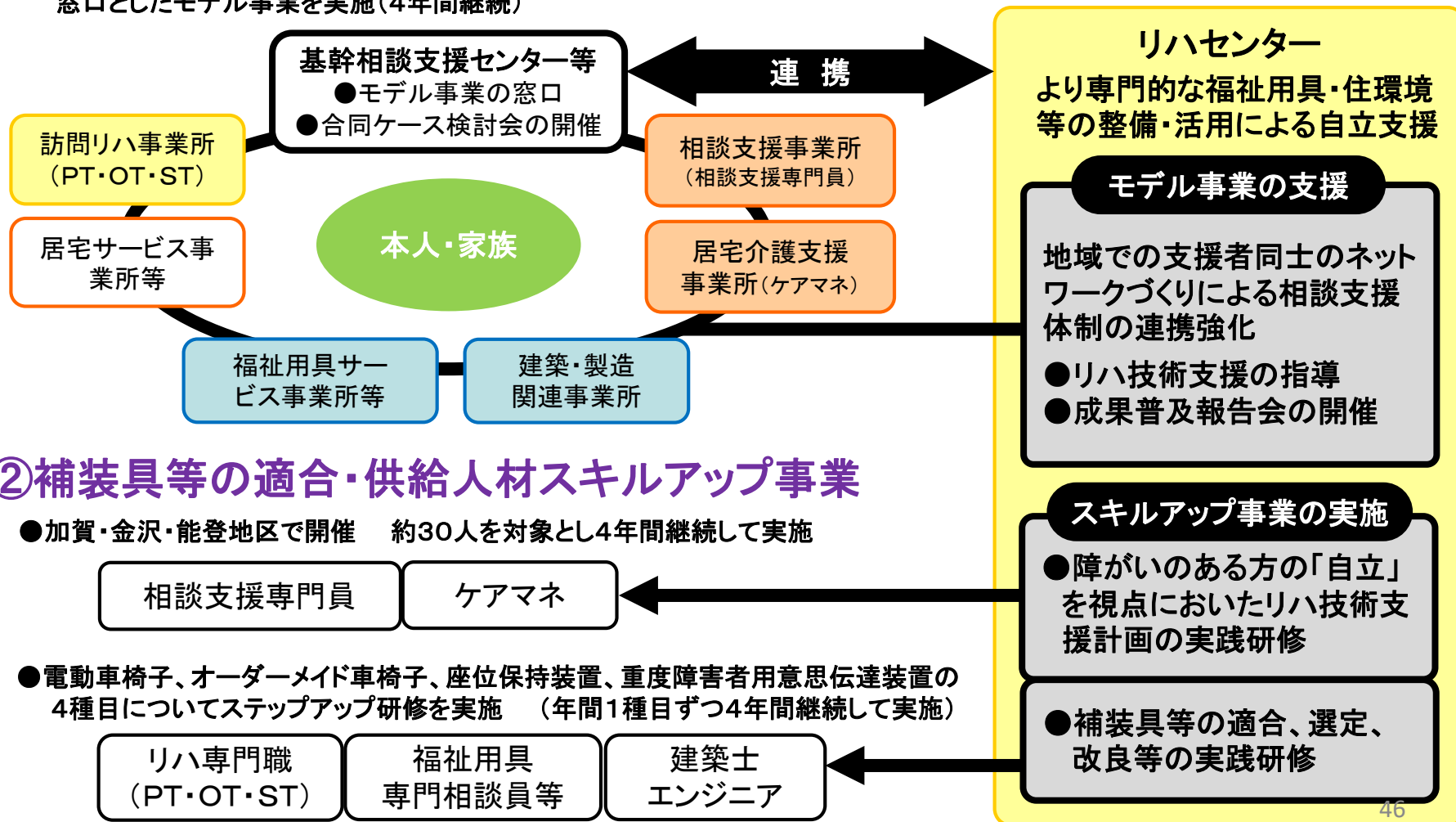
7 自立支援機器 アンテナ事業の活用

(4) 体制づくり

【リハビリテーション技術支援ネットワーク構築事業（県障害福祉課と連携）】

①障害（児）者の自立に向けた支援機関連携モデル事業（H25～H28実施）

- リハセンターの指導により、加賀、金沢、能登地区の基幹相談支援センター等を窓口としたモデル事業を実施（4年間継続）



①支援機関の連携体制づくり(H25～H28)

■ 障害(児)者の自立に向けた支援機関連携モデル事業

かほく市 [H26年度]

- ①リハ技術支援検討会 等
・モデルケース 5事例 ・勉強会 2回
- ②啓発・普及事業
・特別講演会

津幡町 [H26年度]

- ①リハ技術支援検討会 等
・合同ケース検討会 3回
- ②啓発・普及事業
・特別講演会
- ③介護教室 等

能美市 [H25年度]

- ①リハ技術支援検討会 等
・合同ケース検討会 2事例 ・勉強会
- ②啓発・普及事業
・リハ技術支援研修会
- ③先進地視察

白山市 [H27年度]

- ①リハ技術支援検討会 等
・合同ケース検討会 1回
- ②啓発・普及事業
・特別講演会 ・福祉健康まつり
- ③先進地視察
- ④バリアフリー街づくりタウンチェック

加賀市 [H27年度]

- ①リハ技術支援検討会 等
・リハセンター視察及び検討会 ・勉強会
- ②啓発・普及事業
・日常生活用品、補装具マニュアル作成

珠洲市・輪島市・能登町、穴水町 [H27年度]

- ①リハ技術支援検討会 等
・合同ケース検討会 1回 ・勉強会1回
- ②啓発・普及事業
・特別講演、ICF演習
- ③先進地視察

七尾市・中能登町 [H26年度]

- ①リハ技術支援検討会 等
・モデルケース 5事例 ・勉強会 1回
・合同ケース検討会 2回
- ②啓発・普及事業
・特別講演会 ・市民健康まつり
- ③先進地視察

羽咋市・志賀町・宝達志水町 [H27年度]

- ①リハ技術支援検討会 等
・合同ケース検討会 2回
- ②啓発・普及事業
・羽咋郡市福祉施設マップ作成
- ③先進地視察

内灘町 [H28年度]

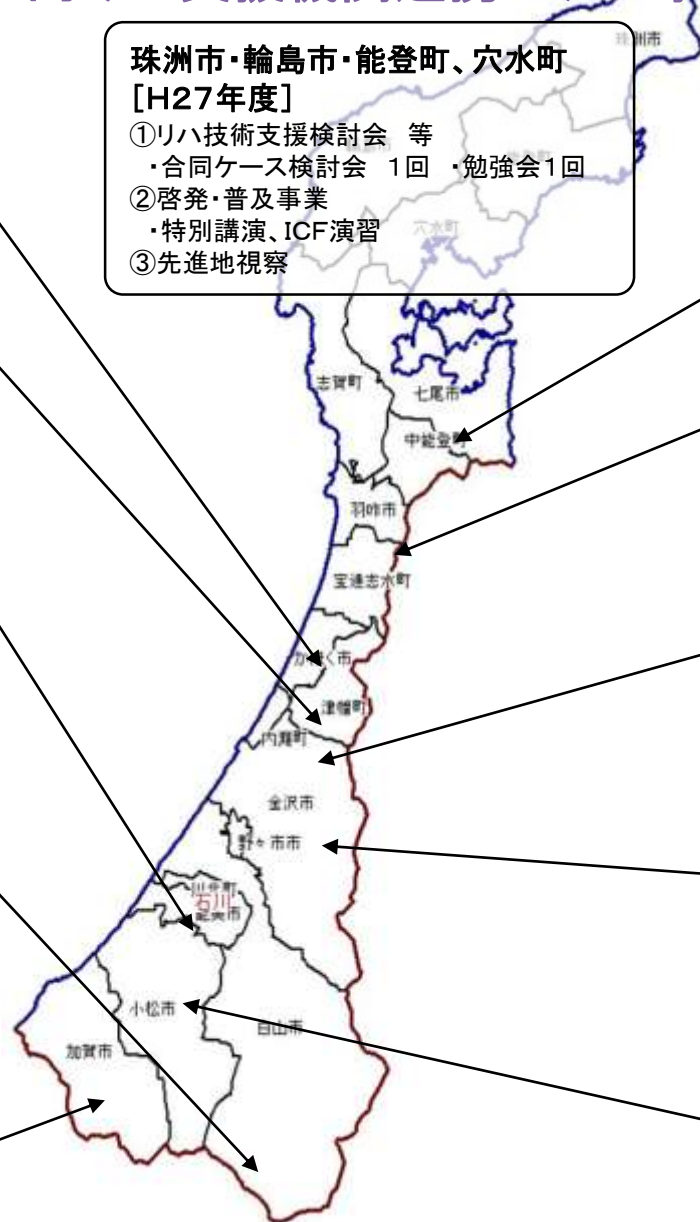
- ①リハ技術支援検討会 等
・合同ケース検討会 1回 ・勉強会 1回
- ②啓発・普及事業
・特別講演会 ・内灘町社会福祉大会

金沢市 [H28年度]

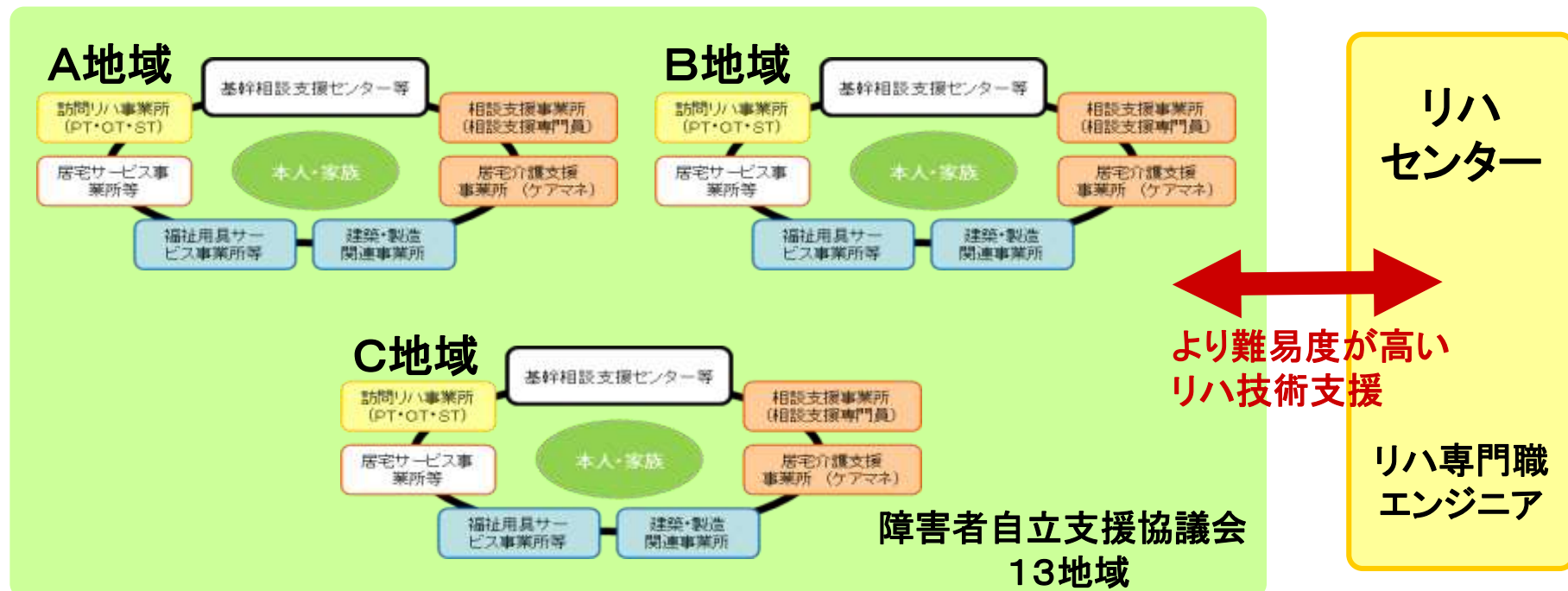
- ①リハ技術支援検討会 等
・基幹相談支援センター全国大会の参加
- ②啓発・普及事業
・リハ技術支援研修会
- ③先進地視察

小松市 [H26年度]

- ①リハ技術支援検討会 等
・医療機関連携検討会 2回 ・勉強会 1回
- ②啓発・普及事業
・特別講演会 ・福祉用具展示
- ③先進地視察



課題



1. 各市町の相談支援事業所等が窓口となり、他機関との調整や福祉サービス・制度の調整などコーディネート業務に対応し、リハセンターの役割はリハ専門職が対応する技術支援に特化してきている。
2. 在宅で暮らす障害者や難病の方を支援する上で、医療・福祉・介護の連携が不可欠になっている。
3. 在宅で実践的なリハビリテーション技術支援を提供できるリハ専門職は少ない状況であり、相談支援専門員等の福祉関係者との連携も十分とは言えない。

在宅リハビリテーション検討会 (H29年度～)

H29年度在宅リハビリテーション検討会

石川中央東地区:39名

(かほく市、津幡町、内灘町、金沢市)

- ・かほく中央病院訪問看護
リハビリテーション つばさ
- ・あさのがわ訪問リハビリ・
訪問看護ステーション
- ・済生会金沢訪問看護
ステーション
- ・訪問看護ステーション
つくし(城北)
- ・金沢西病院訪問看護ステー
ション

南加賀地区:41名

- ・訪問看護ステーション
リハケア芦城
- ・ほうじゅ訪問看護・
リハステーション緑ヶ丘
- ・訪問看護ステーション
ややのいえ
- ・加賀のぞみ園
- ・加賀温泉ケアセンター・
加賀温泉リハビリ
クリニック

能登北部地区:21名

- ・珠洲市総合病院
- ・公立宇出津総合病院
- ・市立輪島病院
- ・公立穴水総合病院

能登中部地区:22名

- ・恵寿総合病院
- ・町立富来病院
- ・町立宝達志水病院
- ・羽咋病院

石川中央西地区:44名

(白山市、野々市市、金沢市)

- ・南ヶ丘訪問看護ステーション
- ・金沢赤十字訪問看護ステー
ション
- ・公立つるぎ病院訪問リハビリ
テーション
- ・KKR北陸 訪問看護ステー
ション
- ・悠輝会訪問看護ステーション
かがやき

●検討会のプログラム●

- ・在宅リハビリテーションの
活動紹介
(子どもからお年寄りまで
様々な障害のある方への
在宅リハ支援が提供できる
事業所紹介)
- ・リハビリテーションセンター
の活動紹介
- ・在宅障害者の事例検討
- ・自立支援機器の活用体験





H30年度 在宅リハビリテーション検討会

石川中央東地区:47名

(かほく市、津幡町、内灘町、金沢市)

- ・国立病院機構 医王病院
- ・金沢医科大学病院
- ・浅ノ川総合病院
- ・済生会金沢病院
- ・ケアパック石川 リハビリ
訪問看護ステーション
- ・金沢湖南苑自立訓練こなん

南加賀地区:29名

- ・国立病院機構 石川病院
- ・加賀市医療センター
- ・やわたメディカル
センター
- ・芳珠記念病院
- ・小松ソフィア病院
- ・石川整肢学園
自立訓練 とらい

能登北部地区:17名

- ・国立病院機構 医王病院
- ・金沢医科大学病院
- ・公立能登総合病院
- ・恵寿総合病院
- ・市立輪島病院
- ・珠洲市総合病院

能登中部地区:34名

- ・国立病院機構 七尾病院
- ・公立能登総合病院
- ・恵寿総合病院
- ・町立富来病院
- ・公立羽咋病院
- ・青山彩光苑 リハビリ
テーションセンター

石川中央西地区:36名

(白山市、野々市市、金沢市)

- ・国立病院機構 医王病院
- ・金沢脳神経外科病院
- ・金沢赤十字病院
- ・公立つるぎ病院
- ・訪問看護・リハビリステーションリハス
- ・金沢ふくみ苑 自立訓練 なでしこ

● 検討会のプログラム ●

- ・急性期・回復期リハ、神経
難病等専門病院、外来リハ、
訪問リハ、障害福祉自立訓
練事業所のリハ専門職から
の活動紹介
- ・リハビリテーションセンター
の活動紹介
(各地域での自立支援機器を
用いた事例の紹介)
- ・高次脳機能障害相談・支援
センターの紹介と事例提示



R元年度 在宅リハビリテーション検討会

日時／場所：10月20日（日）13:30～16:30 石川県リハビリテーションセンター（大研修室）
 10月26日（土）13:30～16:30 小松市公会堂（1階 第1・第2会議室）
 11月 4日（月・振休）13:30～16:30 七尾産業福祉センター（2階 大ホール）
 12月15日（日）13:30～16:30 のと里山空港（4階 41・42会議室）
 12月21日（土）13:30～16:30 石川県リハビリテーションセンター（大研修室）

主 催：石川県リハビリテーションセンター

対 象：医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカー、看護師
 介護支援専門員、相談支援専門員、市町職員、地域包括支援センター職員 等

● 内 容 ●

グループワーク① 予後予測・支援目標の検討

グループワーク② 在宅生活継続のための対応策の検討

●講師・事例紹介●

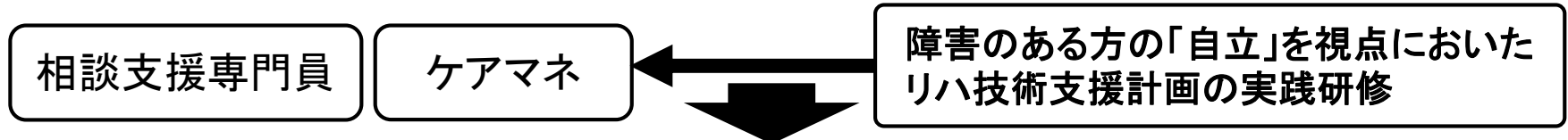
日時	10月20日（日）	10月26日（土）	11月4日（月・振休）	12月15日（日）	12月21日（土）
事例	ポリオ後遺症に 小脳梗塞を合併 70歳代 男性	筋ジストロフィー 50歳代 男性	筋萎縮性側索硬化症 70歳代 女性	筋ジストロフィー 50歳代 男性	難病 20歳代 男性
事例 提示者	ソーシャルネット 「かがやき」 介護支援専門員 大居 美恵子 氏	相談支援センターたいよう 相談支援専門員 矢鋪 幸代 氏	中能登社協 居宅介護支援センター 介護支援専門員 山本 美栄子 氏	相談支援 キララ 相談支援専門員 田中 こず恵 氏	ケアセンター華 相談支援専門員 北川 仁美 氏
助言者および講師	＜医師の立場から＞ 国立病院機構 医王病院 院長 駒井 清暢 氏 ＜MSWの立場から＞ 国立病院機構 医王病院 医療ソーシャルワーカー 中本 富美 氏	＜医師の立場から＞ 国立病院機構 医王病院 統括診療部長 高橋 和也 氏 ＜MSWの立場から＞ 国立病院機構 医王病院 医療ソーシャルワーカー 中本 富美 氏	＜医師の立場から＞ 国立病院機構 医王病院 院長 駒井 清暢 氏 ＜MSWの立場から＞ 金沢大学人間社会学域 地域創造学類 非常勤講師 馬渡 徳子 氏	＜医師の立場から＞ 国立病院機構 医王病院 院長 駒井 清暢 氏 ＜MSWの立場から＞ 金沢大学人間社会学域 地域創造学類 非常勤講師 馬渡 徳子 氏	＜医師の立場から＞ 国立病院機構 医王病院 院長 駒井 清暢 氏 ＜MSWの立場から＞ 金沢大学人間社会学域 地域創造学類 非常勤講師 馬渡 徳子 氏



②人材育成(H25～H28年度)

■補装具等の適合・供給人材スキルアップ事業

●自立支援型サービスの視点を重視したプランニング実践研修 (3回1コースで修了)



H25年度：金沢地区開催	延べ参加人数	71名	→	修了者	19名
H26年度：加賀地区開催	〃	61名	→	〃	21名
H27年度：能登地区開催	〃	54名	→	〃	13名
H28年度：金沢地区開催	〃	138名	→	〃	38名

●補装具に関する適合・製作等の実践的技術研修 (6回1コースで修了)



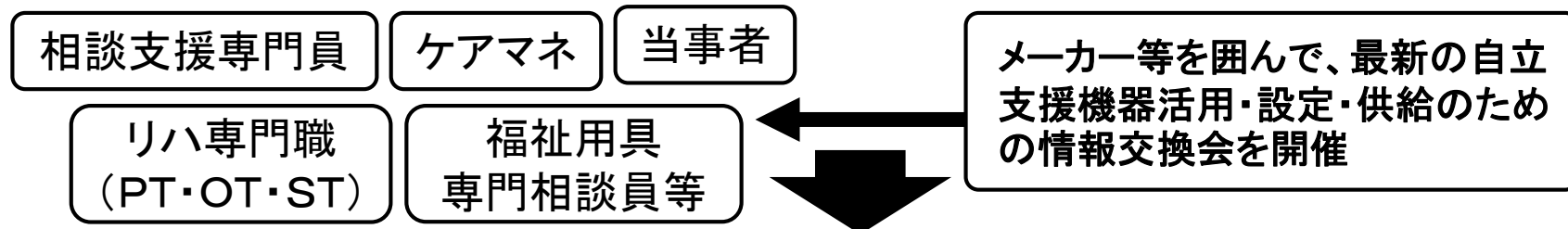
H25年度：電動車椅子	延べ参加人数	234名	→	修了者	26名
H26年度：車椅子	〃	420名	→	〃	50名
H27年度：座位保持装置	〃	395名	→	〃	40名
H28年度：重度障害者用意思伝達装置	〃	285名	→	〃	30名

➡ 自立支援機器活用支援事業 (H29年度～)

② 人材育成（１）（H29年度～）

●自立支援機器活用研修事業

自立支援機器情報交換会（定期開催3回＋随時開催）



・シーティング用具（定期開催）	参加者	36名
・介護ロボット（定期開催）	//	4, 200名
・クッション（臨時開催）	//	16名
・コミュニケーション機器（定期開催）	//	32名
・車椅子部品（臨時開催）	//	21名
・軽量自走用（モジュール式）車椅子（臨時開催）	//	25名



臨時開催案内：登録制

当センターのメールアドレス
iprc@pref.ishikawa.lg.jp

③ 人材育成（２）（H29年度～）

●自立支援機器活用研修事業

自立支援機器・住環境適合研修（3回1コース・レポート提出で修了）

リハ専門職
(PT・OT・ST)

福祉用具
専門相談員

自立支援機器及び住環境等の支援技術を提供できるスペシャリストを育成するための実技研修

テーマ:車椅子（定員 20名）

- ・リハ専門職(PT・OT・ST)コース：延べ参加人数61名→修了者 19名
- ・福祉用具専門相談員コース

